

## 山形大学校友会専門委員会（第26回）議事録

平成30年5月25日(金)  
15時00分～16時56分  
山形大学法人本部役員会議室

### (議 題)

- 1 平成29年度事業、収支決算並びに監査報告について
- 2 平成30年度事業計画並びに収支予算(案)について
- 3 平成30年度校友会「学生幹事」の選出について
- 4 その他
  - (1) 山形大学校友会等の「英文名」について
  - (2) 平成30年度(第14回)山形大学OB&OGセミナーの開催について
  - (3) 平成30年度校友会関係の主な年間スケジュールについて
  - (4) その他

### (出席者)

委員長：野村一芳  
委員：齋藤博行、大場好弘、竹田隆一、佐藤 学、松田友美

### (欠席者)

委員：佐藤圓治

### (列席者)

長岡エンrollment・マネジメント部長、橋間エンrollment・マネジメント部EM企画課副課長  
大沼校友会事務局長、黒沼校友会事務局次長

議事に先立ち、野村委員長から、本日の会議は次回の校友会理事会への提案に向けて検討いただくことになっている旨等挨拶があった。

### 1 平成29年度事業、収支決算並びに監査報告について

委員長から本件について提案があり、事務局から、平成29年度事業の「実施状況一覧」、「個別の事業報告書」、「写真で紹介する事業一覧」及び「収支決算書」並びに「監査報告」について資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料2及び資料3に基づきおおむね次のような説明があった。

#### (内容)

- (1) 平成29年度校友会支援事業は全部で27件、資料1-2が個別の実施報告書、一覧表にしたのが実施状況一覧(資料1-1)であるが、個別事業の説明に当たっては、「写真で紹介する平成29年度校友会支援事業一覧(資料1-3)」をご覧いただきながらお聞きいただきたい。
- (2) なお、実施状況一覧のうち、整理番号2、5、11、15、20及び21の6件は昨年12月末までに終了した事業として、本年2月理事会において報告済みのものである。
- (3) 「大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業(整理番号1)」では途中帰国した学生が2名おり、結果として支援金の返納ということになった。
- (4) 各事業には「自己評価による達成度評価(5段階)」が記載されている。
- (5) 各事業に対する専門委員会としての簡単なコメント等を記入したので、ご覧いただきたい。何かお気づきの点等があれば6月上旬までに申し出いただきたい。

- (6) 資料 2 は平成 29 年度収支決算書であり、収入全体では 580 千円程減であったが事業費 3,371 千円、運営費も 109 千円程の残で、全体としても 3,480 千円の残額があり、その結果、平成 30 年度への繰越額は 5,986 千円である。
- (7) 別途 2,000 万円は、「校友会運営準備金」として積み立てている。
- (8) 5 月 18 日に佐川、内田の両監事による会計監査が行われ、資料 3 のとおり特段の指摘事項等はなかったものである。

これに対し、おおむね次のような意見、要望等があった。

- 『卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業（整理番号 23）』は後輩学生に講演や相談、更に就職アドバイスで卒業生には幅広く活躍してもらうことが目的であるが、単に卒業生による講演会の実施だけで止まっていないか。登録される卒業生には学生の悩みを聞く相談カウンセラー的な役割を担ってもらってもいいのではないか。（齋藤委員）
- 平成 29 年度の実績としては卒業生講演会 1 件であったが、実際には、講演会終了直後に就職アドバイスを、人財バンクに登録されている他の卒業生には学生のキャリア相談をお願いし、企業採用に繋がっているケースもある。（事務局）
- 本事業の目的に即し、卒業生には講演だけでなく就職相談や就職アドバイスにもぜひ力を傾注してもらいたい。（齋藤委員）
- 1 年生同士が友だちを作る交流の場として「野外セミナー」があるが、そういう場にこの制度による卒業生の力を借りることもできるのではないか。（松田委員）
- 卒業生による就職アドバイスという点では、「こういう学問をした人がいる。」とかも含め“実情紹介”するなど事業自体の間口を広くしておくことも必要ではないか。（佐藤(学)委員）
- 校友会事業全体を通じて、学生支援のあり方についてももう少し整理しておく必要があるのではないかと感じている。（野村委員長）
- 「大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業（整理番号 1）」では途中帰国した学生が 2 名いたと聞き驚いたが、当該学生には出発前にはどのような指導をしていたのか。（佐藤(学)委員）
- 大学としても一定のフォローアップを行っているが、2 件とも個人的な理由によって途中帰国したようだ。（大場委員）
- 以前、私が担当したタリン大学へ行った学生も、何も言わずに突然帰ってきたケースがあり困惑したことがあった。（竹田委員）
- 事前にさまざまなことを想定しておくべきであり、ガイドラインや支援金の返還があり得ることを明示しておく必要がある。（松田委員）

種々意見の交換の後、委員長から本件について諮られた結果、原案どおり了承され、次回の校友会理事会へ提案することになった。

## 2 平成 30 年度事業計画並びに収支予算（案）について

委員長から本件について提案があり、事務局から、平成 30 年度事業の「基本方針」、「個別の事業計画書」、「事業計画一覧及び事業採択(案)」及び「収支予算書(案)」について資料 4-1、資料 4-2、資料 4-3 及び資料 5 に基づきおおむね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 平成 30 年度事業計画の採択に当たっては、校友会理事会においてすでに「基本方針」(資料 4-1) が確認されており、この方針に基づき総合的に判断したい。
- (2) 申請のあった平成 30 年度支援事業は、各機関から個別に提出された事業計画

書は資料 4-2 のとおりで、一覧表にしたのが事業計画一覧及び事業採択(案)(資料 4-3)である。

- (3) 平成 30 年度は継続事業 19 件及び新規事業 8 件の合計 27 件で申請総額は予備費を含め 33,785 千円でとなっている。
- (4) 事業採択に当たっては、申請のあった 27 件はすべて校友会支援事業として適格性があると考え、今年度はすべての事業を採択する方向としたい。
- (5) 収支予算書(資料 5)では収入総額が 25,887 千円、年々繰越金も減少しているが、平成 30 年度は 1,800 万円の事業費(昨年度比約 10%減)を確保したい。
- (6) 平成 30 年度継続事業として優位性を認めた 21 事業のうち、次の 2 事業は地元就職支援を拡充するため申請がなかったため審査外となる。
  - ・首都圏就職活動時のセカンドキャンパスの整備(4年目)
  - ・首都圏及び大学主催合同企業説明会参加比較支援事業(2年目)
- (7) 継続事業 19 件(No. 1～19)の採択額は前年度実績を考慮するとともに、特別の場合を除き前年度採択額 10%程度の減として算出したい。
- (8) 継続事業の「学生中心に行う優良企業訪問への支援(No. 5)」は、特に、報告書冊子体から Web 配信に切り替えるため、採択額は大幅な減とした。
- (9) 継続事業の「本学 OB・OG から学ぶ業界・仕事研究セミナー(No. 7)」は、適正検査ツールや卒業生の講師招へいに係る経費を増額し地元就職支援を拡充するため、全体としても採択額が増となった。
- (10) 新規事業 8 件(No. 20～27)については、5 年間の継続事業が経過し再び新規事業として申請があったものが 4 件含まれている。
- (11) 「博士課程学生研究発表奨励事業(No. 23)」は、医学部と工学部との共同申請事業として、今回は工学部から申請があったものである。

事務局からの説明後、委員長から、平成 30 年度事業申請計画に対する事業採択(案)について検討をお願いしたい旨提案があり、審議を行った。

これに対し、おおむね次のような意見、要望等があった。

- 「山形大学駅伝大会への支援(No. 24)」は、学生幹事の協力等も得てもっと盛り上がるようなイベントにできないだろうか。(齋藤委員)
- 「駅伝大会」のやり方を工夫し、仲間作りのきっかけとなるような全学イベントであってほしい。(松田委員)
- 例えば、地域教育文化学部で開講する授業科目「フィールドプロジェクト(3 年生向け)」を活用し授業の一環として参加できないかも検討してみたい。  
(竹田委員)
- 「駅伝大会」は本学の開学記念日(10/15)にすべての授業を休講にして実施しているが、これまではやや盛り上がりには欠け、残念ながら参加するチームやサークルのためだけのイベントとなっているような感が否めない。(事務局)
- 今年の「駅伝大会」は、できるだけ全学的な広がりや盛り上がるようなイベントとなるようあり方等も含め関係者と相談してみたい。(事務局)
- 地元就職の支援を拡充するため、首都圏への就職活動支援事業 2 件を取りやめたが、それでも大丈夫か。(野村委員長)
- 近年、大学からの支援がなくても首都圏就職率は好調をキープしており、むしろ本学の方針に沿って地元就職支援を拡充する方向にシフトするものである。  
(事務局)
- 「山形美術館を活用した学生の学習支援事業(No. 8)」については、学生の利用者をもっと拡大するため、工・農も含め学生幹事の協力等も得て更なる PR に努めてもらいたい。(松田委員)

- 「広報戦略」も大事なことであり、採択事業の実施に当たっては十分配慮して取り組んでもらいたい。(松田委員)

種々審議の後、委員長から本件について諮られた結果、次のとおり了承され、資料整理の上、次回の校友会理事会へ提案することになった。

◆各機関からの事業申請分〈◎印は、校友会が主体的に取り組む事業である。〉

- 事業 1 継続 (25万円) ……前年度採択額と同額
- 〃 2 継続 (32万円) ……前年度採択額 (35万円)
- 〃 3 継続 (50万円) ……前年度採択額 (60万円)
- 〃 4 継続 (90万円) ……前年度採択額 (100万円)
- 〃 5 継続 (48万円) ……前年度採択額 (90万円)
- 〃 6 継続 (20万円) ……前年度採択額と同額
- 〃 7 継続 (95万円) ……前年度採択額 (60万円)
- 〃 8 継続 (25万円) ……前年度採択額と同額
- 〃 9 継続 (18万円) ……前年度採択額 (20万円)
- 〃 10 継続 (50万円) ……前年度採択額と同額
- 〃 11 継続 (30万円) ……前年度採択額 (35万円)
- 〃 12 継続 (23万円) ……前年度採択額 (25万円)
- 〃 13 継続 (27万円) ……前年度採択額 (30万円)
- ◎ 〃 14 継続 (79万円) ……前年度採択額 (80万円)
- ◎ 〃 15 継続 (13万円) ……前年度採択額 (15万円)
- ◎ 〃 16 継続 (80万円) ……前年度採択額 (90万円)
- ◎ 〃 17 継続 (40万円) ……前年度採択額と同額
- ◎ 〃 18 継続 (110万円) ……前年度採択額と同額
- ◎ 〃 19 継続 (45万円) ……前年度 (50万円)
- 事業 20 新規 (採択) (240万円)  
…本事業によって、グローバル化の時代に海外留学を通じて異文化理解が深まり、語学力が向上しコミュニケーション能力が育成されることを大いに期待する。
- 〃 21 新規 (採択) (100万円)  
…各キャンパスの大学祭実施経費の補助や学生主体の合同企画プロジェクトなどへの支援を行い、キャンパス間における一体感を醸成する大事な事業である。
- 〃 22 新規 (採択) (150万円)  
…公認学生サークル活動に対する学生の意欲向上を図り、サークル活動の更なる活性化を推進してほしい事業である。
- 〃 23 新規 (採択) (120万円)【内訳：理工学研究科分100万円・医学系研究科分20万円】  
…国内外で開催される国際学会等において研究成果を発表する大学院学生の研究活動を奨励する事業として大いに期待する。
- 〃 24 新規 (採択) (10万円)  
…本学の開学記念日(10/15)に、「駅伝大会」を通じ母校への愛着心を涵養することは大事なことで、多くの学生参加を得る工夫を行い盛り上げてもらいたい。
- 〃 25 新規 (採択) (60万円)  
…地元就職向上を目指し、多くの公務員志望者に対し試験対策やキャリアプランの具体化を支援する事業として期待する。
- 〃 26 新規 (採択) (75万円)  
…山形県内に定着し活躍する人材育成プロジェクトとして鶴岡と米沢キャンパスで行う事業として期待したい。

◎ 〃 27 新規（採択）（75万円）

…学生が地域の課題解決支援プログラムに参加し、コミュニケーション力の向上や地域を見る目を涵養することで学生の成長に繋がることを期待したい。

予備費（70万円）・・・「不測の財源」として予算計上

平成30年度事業費の合計（1,800万円）

### 3 平成30年度校友会「学生幹事」の選出について

委員長から本件について提案があり、事務局から資料6に基づきおおむね次のような説明があった。

- (1) 本件は平成29年度からスタートした制度であり、校友会に学生幹事（各学部2名ずつの計12名）を配置することとし、今年度は4月末までに当該学生の推薦を依頼していたものである。
- (2) 学生幹事には、校友会会員である学生に校友会諸活動のPRをはじめ校友会の事業運営等にも参画してもらうことにより、学生のさまざまな声を反映できる仕組みを作ることを目指すものである。  
なお、前年度の学生幹事に係る活動報告は資料6にあるとおりである。
- (3) 各学部から推薦のあった学生幹事の名簿は資料6のとおりであるが、今年度は医学部医学科から2名の推薦があり、全体で13名となっている。
- (4) 去る5月17日（木）、学生幹事には大場理事・副学長から委嘱状を交付し、その直後に第1回のミーティングを実施した。

説明の後、委員長から本件について確認され、次回の校友会理事会においても報告し了承を得ることになった。

### 4 その他

委員長から、次の3項目について報告したい旨発言があり、順次、事務局から説明があった。

#### (1) 山形大学校友会等の「英文名」について

本件について事務局からおおむね次のような説明があり、次回の理事会に報告することになった。

(内容)

- ① 本件については、グローバルな視点からの検討も必要ではないかとの意見が寄せられ、本年2月開催の校友会理事会において結論を一旦保留としていたものである。
- ② いろいろな角度から再度検討の上、資料7のとおりとしたい。

#### (2) 平成30年度（第14回）山形大学OB&OGセミナーの開催について

本件について事務局からおおむね次のような説明があり、次回の校友会理事会に報告することになった。

(内容)

- ① 本件は、平成31年3月9日（土）に昨年度と同じ東京田町駅近くの「グランパークカンファレンス大会議室（190人規模）」で実施することが決定している。（資料8のとおり）

- ② 今年度から、主催は「山形大学東京サテライト・山形大学校友会」から「山形大学・山形大学校友会」に変更する。
- ③ 出口毅教授（大学院教育実践研究科担当）と野々村美宗教授（大学院理工学研究科担当）の2人から講演いただくことで、すでに内諾を得ている。
- ④ 昨年に続き2人程度の現役学生に活動報告をお願いし、卒業生OB&OGの皆さまに学生の元気とパワーを届けたいと考えている。
- ⑤ 山形大学のオリジナルグッズ販売なども盛大に実施したい。

### （3）平成30年度校友会関係の主な年間スケジュールについて

本件について事務局からおおむね次のような説明があり、次回の校友会理事会に報告することになった。

（内容）

- ① 本件は、校友会として関係する今年度の主な年間スケジュール（資料 9）を一覧にしたものである。
- ② 現時点でも開催日程等が確定している行事やイベントも多いのでよろしく願いしたい。

### （4）その他

特になし

## 配付資料一覧

- 校友会専門委員会（第26回）次第
- 校友会専門委員会委員名簿（H30.5.25現在）

### 【資料一覧】

- 資料 1-1 平成29年度事業の実施状況一覧
- 資料 1-2 平成29年度事業報告書（個別報告書）
- 資料 1-3 写真で紹介する平成29年度校友会支援事業一覧
- 資料 2 平成29年度収支決算書
- 資料 3 監査報告
- 資料 4-1 校友会事業検討の基本方針（30.2.16校友会理事会確認）
- 資料 4-2 平成30年度事業計画書（個別申請分）
- 資料 4-3 平成30年度校友会事業計画一覧及び採択事業（案）
- 資料 5 平成30年度収支予算書（案）
- 資料 6 平成30年度校友会「学生幹事」名簿ほか
- 資料 7 山形大学校友会等の「英文名」に関する資料
- 資料 8 平成30年度山形大学OB&OGセミナーの開催概要
- 資料 9 平成30年度校友会関係の主な年間スケジュール

**[参考資料]**

- 1 山形大学校友会会則
- 2 山形大学校友会専門委員会規程
- 3 校友会専門委員会第25回議事録 (H30. 1. 22)
- 4 校友会理事会第23回議事録 (H30. 2. 16)
- 5 山形大学校友会会報 No.10・No.11